

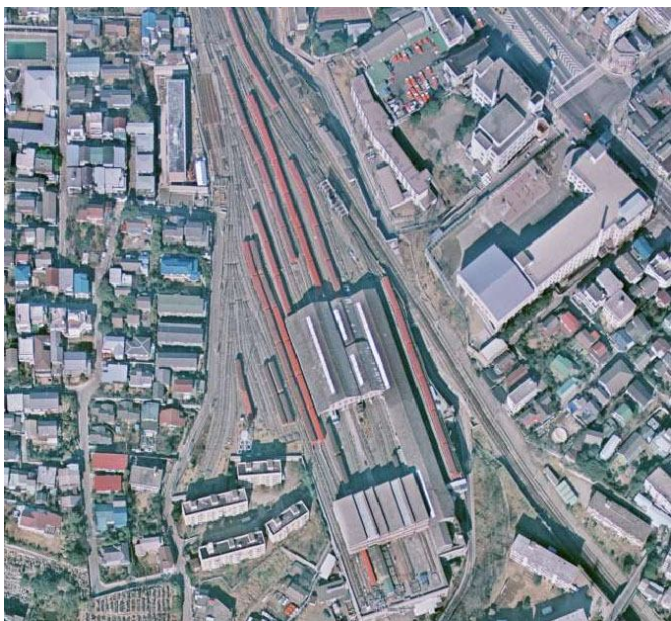
## 「ぐるっと茗荷谷・街たんけん (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

子どもたちは、茗荷谷駅より少し後樂園寄りの跨線橋から、線路と車庫を眺めた。この車庫は、茗荷谷の谷地形の上に盛土をして水平な軌道敷を造成したものである。丸ノ内線の車庫を一望できるのはこの場所だけである。電車好きな子どもは、なかなか進めなくなってしまった。



写真の左側2線は丸ノ内線の本線で、後樂園手前まで地上を走ることになる。武蔵野地と茗荷谷(浸食谷)の境界の段丘崖の中腹に線路が敷かれているのだ。



写真は1975年(昭和50年)の航空写真である。(国土地理院提供)当時の、屋根まで真っ赤な丸ノ内線の車両がたくさん写っている。



しばしの「車庫見学」が終わって、春日通りへ戻る。ここには「井太郎」という牛丼屋さんがある。「どんたろう」ではなく「どんぶりたろう」が正しい読みである。もともとは「牛井太郎」というチェーン店(都内を中心に10店舗以上)の一つだったが、現在は「牛」の字を消して、最後に残った1店舗となっている。私が事前学習で宣伝しておいたので、子どもたちには大人気のお店だった。



最後に通った茗荷谷駅前。ここまで来るとゴールの学校は目前で、子どもたちにもほっとした雰囲気が流れる。しかしこのあたりは、薬局、文房具店、銀行、飲食店、交番などが林立し、子どもたちはメモに忙しそうだった。ゴールの学校に着いた子どもたちには、記念切符を配った。暑い日だったが、楽しく充実した活動だったと思う。

